



人権教育学習指導案集

～令和3年度の実践～

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課

刊行にあたって

「人権教育学習指導案集～令和3年度の実践～」は、令和3年度に文部科学省・埼玉県教育委員会の委託を受けた人権教育総合推進地域及び人権教育研究指定校において作成、実践された学校の人権教育学習指導案をもとに当課が編集したものです。

この学習指導案集は、学習指導案提供校において研究主題を基に、また人権教育上の課題を解決するために、各地域や学校の実態を踏まえ具体的な授業実践に取り組みられた成果です。人権に関する知的理解を深めるとともに、児童生徒一人一人に実践的な態度や行動に結びつく人権感覚を身に付けさせるために、人権教育の指導方法を工夫・改善した実践を掲載しております。

当課が作成した「人権感覚育成プログラム（学校教育編）」（平成20年3月）、「人権感覚育成プログラム（社会教育編）」（平成21年3月）、「人権教育資料～指導実践の手引～」（平成22年3月）、「人権感覚育成プログラム増補版（学校教育編）」（平成25年3月）、「人権感覚育成プログラム（学校教育編）第2集」（平成31年3月）につきましては、各学校の御理解と御協力により、多くの学校で活用していただいております。各学校におかれましては、各教科等で人権教育の視点に基づいた授業を実践する際に本書と併せて活用し、学校の実態に応じて人権教育を積極的に推進していただきますことを期待しております。

結びに、本書の刊行にあたり、学習指導案を御提供いただきました各学校及び関係各位に対しまして、厚くお礼を申し上げます。

令和4年3月

埼玉県教育局市町村支援部人権教育課長
塩崎 豊

人権教育学習指導案の提供校

〈小学校〉	新座市立池田小学校
〈中学校〉	新座市立第三中学校
	入間市立金子中学校

※提供された学習指導案の中から当課が編集し掲載しています。

目 次

○ 「人権教育上のねらい・視点・配慮」の指導案への記入について	1
○ 学習指導案の記述例と留意点	2
1 小学校第6学年 算数科学習指導案	4
単元名 「順序よく整理して調べよう」	
2 小学校第2学年 道徳科学習指導案	10
主題名 「えこひいきしないで」	
3 小学校特別支援学級 自立活動学習指導案	14
題材名 「きいて きかれて いいきもち」	
4 中学校第2学年 国語科学習指導案	18
単元名・教材名 話す聞く「聞き上手になろう」～質問で話を引き出す～	
5 中学校第2学年 社会科学習指導案	22
単元名 「鎖国下の対外政策」	
6 中学校第2学年 学級活動学習指導案	26
題材名 「ネットトラブル防止」	

「人権教育上のねらい・視点・配慮」の学習指導案への記入について

学習指導案は「人権教育上のねらい・視点・配慮」の内容項目を設け、次のとおり作成しています。

<p>人権教育上のねらい</p>	<p>学校教育目標や人権教育目標を達成するために、各教科等において<u>人権教育を推進していく上で、人権課題別に各単元や一単位時間の中で目指すこと。</u> () 内に人権課題を明示する。 <例> (普遍的な人権課題「生命尊重」) (個別の人権課題「障害のある人」)</p>
<p>人権教育上の視点</p>	<p>「人権教育上のねらい」の達成を目指し「法の下での平等」、「個人の尊重」といった人権一般の普遍的な課題に対する取組や具体的な個別の人権課題に対する取組の中で、<u>児童生徒に身に付けさせたい知識、価値・態度、技能のこと。</u> 【知識】 <例> <input type="checkbox"/> 各人権課題に関する正しい知識 <input type="checkbox"/> 情報を的確に収集し、合理的に理解し、活用する力 <input type="checkbox"/> 豊かな感性や想像力、共感的に理解する力 【価値・態度】 <例> <input type="checkbox"/> 人間としての尊厳や自尊感情を大切にする態度 <input type="checkbox"/> 異なる文化を受容したり、違いを認めたりする態度 <input type="checkbox"/> 正義と公正を尊ぶ態度 <input type="checkbox"/> 課題解決に向けた意欲・実践的な態度 【技能】 <例> <input type="checkbox"/> 非攻撃的自己主張の技能 <input type="checkbox"/> コミュニケーションの技能 <input type="checkbox"/> 人間関係を調整する技能 <input type="checkbox"/> 解決に向けた実践力やそのための技能</p>
<p>人権教育上の配慮</p>	<p>「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を身に付けさせるための<u>教師による具体的な手立て(指示、説明、資料提示など)のこと。</u>具体的な手立てを「◎」で明示し、記入する。 ※「<u>わかりやすくゆっくり話す</u>」や「<u>友達の話をよく聞く</u>」等の学習一般の配慮事項を記入するものではない。</p>

学習指導案の記述例と留意点（「道徳科学習指導案の例」）

道徳科学習指導案			
1	主題名	
2	ねらい	
	教材名	
3	主題設定の理由	(1) ねらいや指導内容について (2) これまでの学習状況及び児童生徒の実態について (3) 教材の特質や活用方法について	
4	人権教育上のねらい（個別の人権課題「子供」）	将来、人権を保障する共生社会の担い手となるよう、自 他を尊重する精神を養う。	
5	人権教育上の視点	(1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利に ついて知識をもつとともに、いじめなど身の周りの問題の 不当性を理解する。（知識） (2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーション の能力を高めることができる。（技能）	
6	学習指導過程	◎人権教育上の配慮	
	段階	学習活動 主な発問	予想される児童生徒の反応
			・指導上の留意点 ☆評価の視点
	1
	2
	3
	4
	5
			◎身の回りの問題に関す る現状を認識させるた め、「条約」と「いじめ 発生件数」の資料を提示 する。（知識） ◎相互尊重のコミュニケ ーションスタイルを学 ばせるため、アサーティ ブトレーニングを取り 入れる。（技能）
7	他の教育活動との関連		
8	評価の視点		

← ポイント1

1 }
 2 } ← ポイント1
 3 }
 6 }
 7 }
 8 }

← ポイント2

← ポイント3

← ポイント2

← ポイント4

← ポイント2

← ポイント5

← ポイント5

← ポイント5

人権教育上のねらい }
 人権教育上の視点 } ← ポイント6
 人権教育上の配慮 }

・ポイント１・・・学習指導案は、各教科等の様式を原則とし、学習指導要領を基に記述する。
学習指導案様式は、埼玉県教育委員会の刊行物を参照。

・ポイント２・・・学習指導案に「人権教育上のねらい・視点・配慮」の項目を設けて記述する。

- | |
|---|
| 4 人権教育上のねらい（〇〇の人権課題「□□□□」）……（ ）内に人権課題を明記する。
5 人権教育上の視点
◎ 人権教育上の配慮 |
|---|

・ポイント３・・・本単元（本時）で解決を目指す人権課題を「人権教育上のねらい」に明示する。

（個別の人権課題「子供」） 将来、人権を保障する共生社会の担い手となれるよう、自他を尊重する精神を養う。

※記述する際は、「～を養う」や「～ができるようになる」などといった表記となる。

（普遍的な人権課題の内容例）

世界人権宣言や日本国憲法に示されているようなもの（「法の下での平等」「個人の尊重」など）や、「人権感覚育成のための視点」で示している9つの視点など。

（個別の人権課題の内容例）

埼玉県人権教育実施方針に示されているもの（「女性」「子供」「高齢者」「障害のある人」「同和問題」「外国人」「H I V感染者等」「犯罪被害者やその家族」「アイヌの人々」「インターネットによる人権侵害」「北朝鮮当局による拉致問題」「災害時における人権への配慮」「様々な人権問題（刑を終えて出所した人、性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ、ホームレスの人権、プライバシーの侵害、その他）」）

・ポイント４・・・「人権教育上のねらい」に明示した人権課題を解決するために必要な「知識」、
「価値・態度」、「技能」を「人権教育上の視点」として記述する。

- | |
|---|
| (1) 「児童の権利に関する条約」に保障された子供の権利について知識をもつとともに、いじめなど身の周りにある人権問題の不当性を理解する。（知識）
(2) 互いに伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力を高める。（技能） |
|---|

※記述する際は、「～を理解する」や「～しようとする」、「～できる」などといった表記となる。

・ポイント５・・・「人権教育上の視点」に示した知識、価値・態度、技能を本時の展開の中で身に付けさせるための具体的な手立てを「人権教育上の配慮」として記述する。

- | |
|--|
| ◎ 身の回りの問題に関する現状を認識させるため、「条約」と「いじめ発生件数」の資料を提示する。（知識）
◎ 相互尊重のコミュニケーションスタイルを学ばせるため、アサーティブトレーニングを取り入れる。（技能） |
|--|

※記述する際は、「～を提示する」や「～を促す」などといった表記となる。

・ポイント６・・・「人権教育上のねらい・視点・配慮」の整合がとれていること。
本時で扱う人権課題の解決に必要な知識、価値・態度、技能が身に付くような具体的な手立てがなされていることがはっきりと示されていることを確認する。

小学校第6学年 算数科学習指導案

1 単元名 順序よく整理して調べよう

2 単元について

(1) 児童観（省略）

(2) 教材観

本単元は、学習指導要領第6学年の内容D（2）「起こり得る場合に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」の「ア（ア）起こり得る場合を順序よく整理するための図や表などの用い方を知ること。イ（ア）事象の特徴に着目し、順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察すること。」を受けて設定されたものである。

(3) 指導観

順列や組合せについて、事象の特徴に着目し、図や表を適切に用いたり、名称を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道を立てて考えていく力を育成する。その際には、起こり得る場合を思いつくままに列挙すると落ちや重なりが生じるおそれがあることに気付かせる。正確に求めるには、「①名称の記号化、②図や表などの使用、③観点の明確化、④あるものを固定する」などの工夫をすればよいことに気付かせ、児童の考えを導き出せるように授業を展開していく。児童がつかずく例としては、1番目を固定できない、順列と組合せの違いを区別できないことが予想される。問題文を正確に読み取らせた上で、的確に判断できる力を身に付けられるように支援する。考え方を共有する際には、学習支援ソフトを使用することで児童の数学的な考えが広がるようにし、本時の展開を図る。

3 単元の目標と観点別評価規準

(1) 目標

順列や組合せについて、落ちや重なりのないように、起こり得る場合や順序よく整理するための図や表などの用い方を理解し、事象の特徴に着目し順序よく整理する観点を決めて、落ちや重なりなく調べる方法を考察する力を養う。それとともに、筋道立てて考えを進めていこうとする態度や、数学的表現を用いて落ちや重なりのないように調べた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用したりする態度を養う。

(2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
順列や組合せについて、落ちや重なりのないように調べるには、ある観点に着目したり、図や	事象の特徴に着目し、順列や組合せについて、落ちや重なりのないように図や表を適切に用いたり、名称	順列や組合せについて、図や表などを用いて工夫しながら、落ちや重なりがないように調べた過程を振り返り、多面的に捉

表などに書き表したりするとよいことを理解している。	を記号化して端的に表したりして、順序よく筋道を立てて考えている。	え検討して、よりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用したりしようとしている。
---------------------------	----------------------------------	--

4 指導及び評価計画

時	目 標	学習活動	評価規準
① 本 時	○順列について、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・落ちや重なりがないように、4人で走る順序を考える。 ・記号化して考えるとよいことを知る。 ・表や樹形図を用いて調べる。 ・表や樹形図を用いた調べ方について話し合う。 	<p>【思・判・表】 事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。</p> <p>【態度】 順列について、落ちや重なりがないように工夫して調べようとしている。</p>
2	○順列について、落ちや重なりがないように調べる方法について理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの数字で2桁の整数が何通りできるか調べる。 ・メダルを3回投げたときの表と裏の出方が何通りあるか調べる。 ・いくつかの数字を使ってつくる4桁のパスワードが何通りできるか考える。 	<p>【知・技】 順列や組合せについて、落ちや重なりがないように順序よく整理して調べることができる。</p>
3	○組合せについて、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・4チームの総当たりの場合の試合数の調べ方を考える。 ・表や図を用いて考える。 ・多角形の辺や対角線を使って調べる考え方を取り上げる。 ・それぞれの考えについて話し合う。 	<p>【知・技】 順列について、落ちや重なりがないように調べるには、図や表などを用いるとよいことを理解している。</p> <p>【思・判・表】 事象の特徴に着目し、組合せについて、落ちや重なりがないように、図や表を用いて順序よく筋道立てて考え、調べている。</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> ・5種類のアイスクリームから2つ選ぶときの組合せを考える。 ・身の回りから、順列や組合せの場面を見つけて調べる。 	

5	○単元の学習の活用を通して、事象を数理的にとらえ理論的に考察し、問題を解決する。	[いかしてみよう] ・レストランでできるセットメニューの組合せについて調べる。	【思・判・表】 学習内容を適切に活用して、筋道を立てて考え、問題を解決している。 【態度】 学習内容を生活に生かそうとしている。
6	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方や考え方を振り返り、価値づける。	・「たしかめよう」に取り組む。 ・「つないでいこう算数の目」に取り組む。 ・キュービナや補充のプリントに取り組む。	【知・技】 基本の問題を解決することができる。 【思・判・表】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【態度】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かしたりしようとしている。

5 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）

様々な方法で、自分の考えを他者に分かるように伝えることができたり、学び合いや対話を大切にして意見を調整したりすることができる。

6 人権教育上の視点

(1) 情報を的確に収集し、合理的に理解し活用する能力を高める。(知識)

(2) 互いに伝え合い、分かり合うためのコミュニケーションの能力を高める。(技能)

7 本時について（1／6時）

(1) 本時の目標

順列について落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。(知識・技能)

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

学習活動	教師の発問 (○) 予想される児童の反応 (・)	◆指導上の留意点 評価規準 (◇) 【観点】(評価方法) A評価 支援(⇒)、ICTの活用(☆)	時間
1 問題を把握し、課題を見出す。 4人でリレー	あおいさん、いくとさん、うみひこさん、えりさんの4人でリレーのチームを作り、1人1回ずつ走ります。走る順序にはどんなものがあるか調べましょう。		5

<p>のチームを作る場合にどんな走る順序があるかを考え、例を発表する。</p>	<p>○どんな順序が考えられるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおい→いくと→うみひこ→えり ・何通りできるだろうか。 ・どうやったら数えられるだろうか。 	<p>◆順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。</p>																															
<p>2 見通しをもつ。</p> <p>問題場面から課題をとらえ、解決の見通しをもつ。</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">落ちや重なりがないよう正確に分かりやすく調べる方法を考えよう。</p> <p>○正確に分かりやすく調べるためにはどんなことに気を付けたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則的に考える。 ・1番に走る人を固定する。 ・図や表を使って考える。 	<p>◆落ちや重なりがないように調べるためにどうすればよいかに着目させる。</p>	10																														
<p>3 自力で解決をする。</p> <p>落ちや重なりがないように考えて、走る順序をすべて書き出す。</p>	<p>○どのように考えれば、正確に分かりやすく調べることができるでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番目をアと決めて、2番目をイ、ウ、エと決めて並べている。 <div style="text-align: center;"> <p>① ② ③ ④</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>ア</td><td>イ</td><td>ウ</td><td>エ</td><td>←</td></tr> <tr><td>ア</td><td>イ</td><td>エ</td><td>ウ</td><td>←</td></tr> <tr><td>ア</td><td>ウ</td><td>イ</td><td>□</td><td>←</td></tr> <tr><td>ア</td><td>ウ</td><td>□</td><td>□</td><td>←</td></tr> <tr><td>ア</td><td>エ</td><td>□</td><td>□</td><td>←</td></tr> <tr><td>ア</td><td>□</td><td>□</td><td>□</td><td>←</td></tr> </table> </div> <p>・樹形図で調べている。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	ア	イ	ウ	エ	←	ア	イ	エ	ウ	←	ア	ウ	イ	□	←	ア	ウ	□	□	←	ア	エ	□	□	←	ア	□	□	□	←	<p>☆自分の考えをノートに記したらスライドに入力させる。</p> <p>◎学習支援ソフトのスライドに自分の考えを入力して、互いの考えを共有させる。(技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆考え方や表し方でよいところを発表させる。 ◆1番目を決めた理由を説明させる。 ◆図の見方を説明させる。 <p>◇事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。【観察ノート】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>事象を記号化して表や樹形図を用いて説明できている場合をAとする。</p> </div>	
ア	イ	ウ	エ	←																													
ア	イ	エ	ウ	←																													
ア	ウ	イ	□	←																													
ア	ウ	□	□	←																													
ア	エ	□	□	←																													
ア	□	□	□	←																													

	<ul style="list-style-type: none"> ・解き方が分からない。 	<p>⇒1番目をアに決めて考えるように助言する。 P166の図や表を活用するように助言する。</p>	
<p>4 発表・検討をする。</p> <p>各自の考え方を発表し、全体で共有する。</p>	<p>○どのように考えたのでしょうか。</p> <p>○考え方や表し方でよいところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記号化すると早く簡単に表せる。 ・1番目、2番目を固定すると順序よく並べられる。また、落ちや重なりがないように並べられる。 ・表や樹形図を使うと見やすく分かりやすく整理することができる。 	<p>☆スライドに入力されている写真を見ながら考え方の共有を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達の写真を使って他の児童に説明させ、理解を深められるようにする。 ◆考え方の価値を板書する。「記号化」「1番目の固定」「落ちや重なりがない」「表や樹形図は分かりやすい」 ◎友達の考えを理解し、活用できている児童を称賛し相互理解を深める。 (知識) 	
<p>5 適用問題に取り組む。</p> <p>P167の⑤～⑦に取り組む。</p>	<p>○1番目がアの場合は、何通りになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6通り <p>○1番目がイ、ウ、エの場合、何通りになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ6通り <p>○全部で何通りになりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24通り ・$6 \times 4 = 24$で24通り 	<ul style="list-style-type: none"> ◆アの場合が分かれば、イ、ウ、エについては改めて調べる必要がないことに気付かせる。 	
<p>6 本時のまとめをし、学習の振り返りをする。</p> <p>並べ方を調べるための考え方、表し方をまとめる。各自のまとめ方を基に全体のまとめをする。</p>	<p>○どのように考えると、落ちや重なりがなく調べられましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>落ちや重なりがないように調べるには、図や表を使って調べるとよい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分の言葉でまとめられた児童を称賛する。 ☆学習支援ソフトに取り組む。 	

8 板書計画

順序よく整理して調べよう

あおいさん、いくとさん、うみひこさん、えりさんの4人でリレーのチームを作り、1人1回ずつ走ります。走る順序には、どんなものがあるか調べましょう。

- ・あおい→いくと→うみひこ→えり
- ・あおい→ア　いくと→イ
うみひこ→ウ　えり→エ

落ちや重ならないよう正確に分かりやすく調べる方法を考えよう。

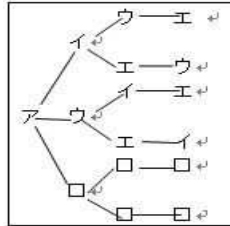
- ・規則的に考える。
- ・1番に走る人を固定する。
- ・図や表を使って考える。

1番目をアにする場合

① ② ③ ④

ア	イ	ウ	エ
ア	イ	エ	ウ
ア	ウ	イ	□
ア	ウ	□	□
ア	エ	□	□
ア	□	□	□

樹形図



1番目がアで6通り

順序よく整理するには…

- ①記号化すると早く簡単に表せる。
- ②1番目を固定すると順序よく並べられる。
- ③表に表すと落ちや重なりが防げる。
- ④樹形図を用いると同じ記号が省略できるので書く回数が少なくて済む。

1番目をイにする場合で6通り

1番目をウにする場合で6通り

1番目をエにする場合で6通り

4人の走る順序は全部で $6 \times 4 = 24$ 通り

落ちや重ならないように調べるには、図や表を使って調べるとよい。

小学校第2学年 道徳科学習指導案

- 1 主題名 えこひいきしないで 内容項目[C 公正、公平、社会主義]
- 2 ねらい 接する態度を変えられた登場人物の心情を考えることを通して、人によって態度を変えることは相手に嫌な思いをさせることに気付き、誰とでも仲良くするために自分の好き嫌いにとらわれずに接していこうとする態度を養う。
- 3 教材名 「三びきは友だち」(「生きる力 2」日本文教出版)

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は内容項目「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること」に関するものである。低学年の段階においては、発達的な特質から自己中心的な考え方をしがちである。そのため、他人も自分と同じ感じ方や考え方であると考え、異なる感じ方や考え方を否定する傾向がある。こうした自分の好みや利害によって、ともすると公平さを欠く言動をとる姿も見受けられる。

ここでは児童が自分事として捉えられるように、教材と同じような経験や主人公の立場だったらどうするかを学級で話し合う。そして、自分の好き嫌いによって接し方を変えることはどの立場からも嬉しいことではないことに気付き、誰に対しても同じように接することの大切さを感じることを目的として、本主題を設定した。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について (省略)

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、ぴよんた、わんた、ぽんきちの三匹が相撲をとって遊んでいるときにわんたとぽんきちがひっくり返り、くまおじさんが大切に世話をしていた花壇の花を折ってしまうという話である。くまおじさんが来た時に、ぴよんたは友達であるわんただけをかばい、「ぽんきちが壊しました」と伝える。しかし、わんたは少し悲しそうな顔をして、自ら謝りに行った。正直に謝りに行ったわんたの姿を見たぴよんたの心情を考えることで、自分の好き嫌いによって態度を変えることは誰にとっても嬉しくないことであることに気付き、相手の気持ちを考えて公平に接する大切さについて考え、話し合いたい。また、役割演技を行い、それぞれの立場の気持ちを考えていきたい。それぞれの登場人物の心情を整理するために構造的な板書をする。

5 人権教育上のねらい (普遍的な人権課題「公平・公正」)

接する態度を変えられた人の立場に立って考え、話し合い活動を通して、自分の好き嫌いなどによって態度を変えるのではなく、常に相手の思いを考えて公平に関わろうとする態度を育てる。

6 人権教育上の視点

自分の好き嫌いにとらわれず、公平に接することのよさを理解することができる。
(価値・態度)

7 学習指導過程

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動 ★中心発問 ○補助発問	・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 ねらいとする道徳的価値への問題意識をもたせる。 ○誰かを特別扱いしたことはありますか。	・好きな子と同じグループを組んだ。 ・遊びに入れてあげなかった。 ・好きな子にだけ手紙をあげた。	・「公平・公正」について関心を高めるよう促す。	5
展開	2 教材の登場人物や条件・状況について知る。 3 教材「三びきは友達」を聞く。 4 本時の学習課題を知る。 5 教材の内容について話し合う。 ○「わんたさんのことは言わないからね。友達だもの。」と言ったときのぴよんたはどんなことを考えていたでしょうか。	登場人物：ぴよんた、わんた、ぼんきち 【条件・状況】 ぴよんたとわんたは友達で、とても仲良しである。二匹が遊んでいたところにぼんきちが来た。三匹で相撲をとっていると、わんたとぼんきちがひっくり返って、くまおじさんの大切な花壇の花を折ってしまう。 ・正直に謝ったわんたは偉いと思う。 ・ぼんきちだけ謝らなくてはいけないのはかわいそう。 ・ぴよんたは、わんたのことだけを隠してずるいと思う。	・感想を聞き、課題の設定につなげる。 ・教材を聞いて、思ったことを自由に話すように促す。	30
		課題：特別扱いしないために大切なところは。	・この後に自分の好き嫌いにとらわれてとった行動が間違いだったことに気付くことにつながるため、ぴよんたはわんたのことを思って	
		・仲良しだから言わないであげよう。 ・怒られたらかわいそうだから、内緒にしよう。 ・正直に言った方がいいかな。		

	<p>★ぴよんたがわんたのことだけを特別扱いしたとき、わんたとぼんきちはどう思ったでしょうか。(役割演技)</p> <p>○正直に謝りに行ったわんたの姿を見て、ぴよんたはどう思ったのでしょうか。</p> <p>○ぴよんたは二匹と仲良くなるためにどうしたらよかったですか。みんなだったらどうしますか。</p>	<p>・わんたは喜んでくれるかな。</p> <p>(わんた)</p> <p>・ぴよんたは隠そうとしているけれど、正直に謝らないといけない。</p> <p>・もやもやする。</p> <p>(ぼんきち)</p> <p>・なんでわんたのことは言わないのだろう。</p> <p>・僕だけではないのに。</p> <p>・わんたはずるいな。</p> <p>・自分のやったことは間違っていた。</p> <p>・正直に謝ってえらい。</p> <p>・わんたとぼんきちに謝りたい。</p> <p>・いっしょに帰る。</p> <p>・誤った方がいいよと言う。</p> <p>・特別扱いしないで同じように接する。</p>	<p>とった行動であることを気付かせる。</p> <p>・役割演技を行い、態度を変えられた側の気持ちを考えさせる。</p> <p>・わんたが少し悲しそうな顔をしたところに着目させ、特別扱いされた方も嬉しいばかりではないことに気付かせる。</p> <p>◎友達の見をよく聞き、自分の意見と比べながら聞くように声をかける。</p> <p>・良かれと思ってとった行動が、間違いだったと気付いたときの気持ちを考えさせる。</p> <p>・自分だったらどうするかを考えさせ、自分事として捉えられるようにする。</p>	
終末	<p>6 今までの自分を振り返る。</p> <p>○今までの自分はどうでしたか。</p> <p>○特別扱いしないためにどんな心が大切だと思いましたか。</p>	<p>・相手のことを考えて、みんな同じに接したほうがよい。</p> <p>・友達でも、悪いことをしたときは正直に伝えた方がいいと思った。</p>	<p>☆相手のことを考えて、友達と仲良くするために誰にでも同じように接することの大切さについて考え、自分の言葉で振り返っている。</p> <p>(ノート・発言)</p>	10

8 評価の視点

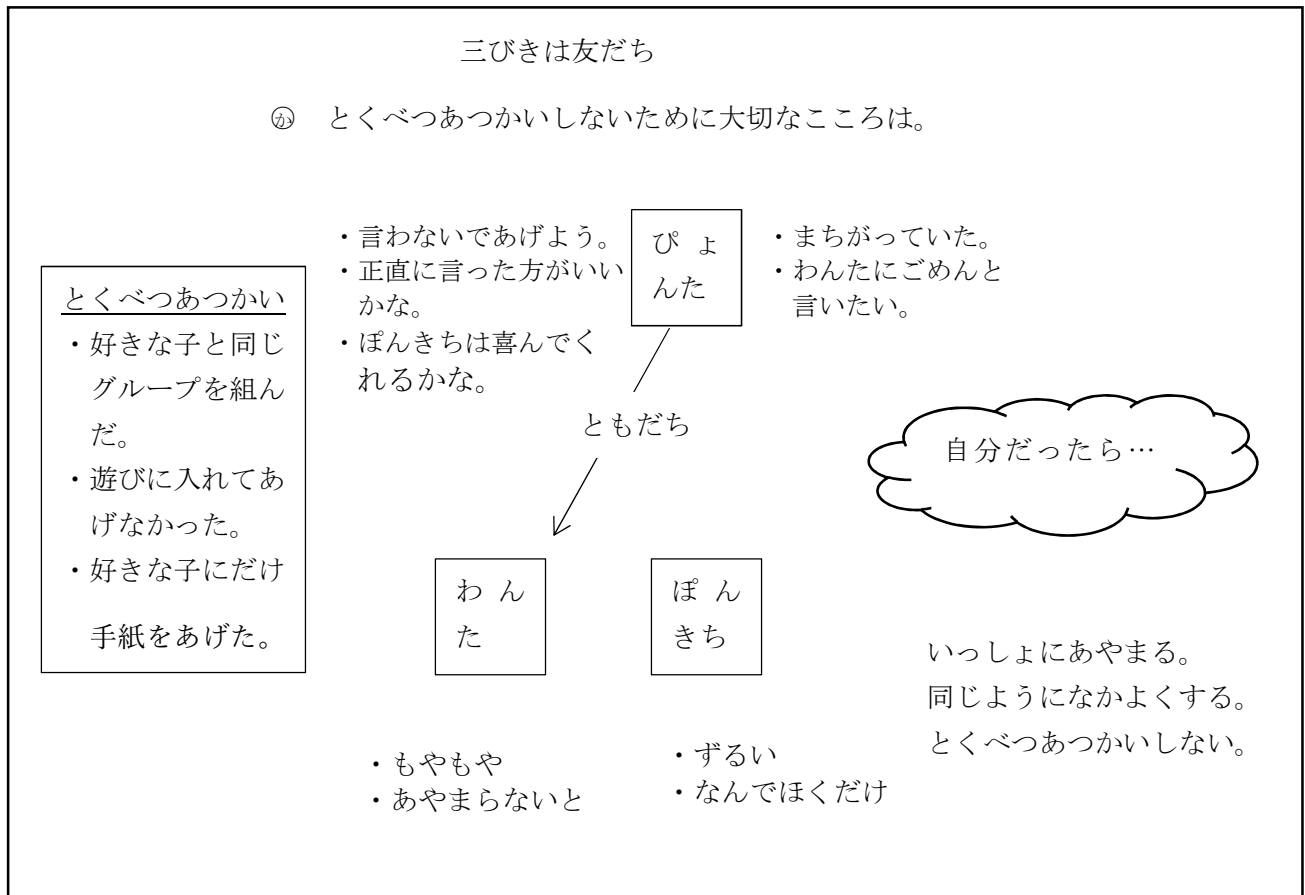
<物事を多面的・多角的に考えている様子>

- ・役割演技を行い、人によって態度を変えられたときの気持ちをそれぞれの立場から多面的・多角的に考えている。

<道徳的諸価値についての理解を自分との関りで見つめている様子>

- ・相手によって態度を変えることがよくないことであると気づき、公平に接することについて自分との関りで考えている。

9 板書計画



小学校特別支援学級 自立活動学習指導案

1 題材名 「きいて きかれて いいきもち」

2 題材について

(1) 児童観 (省略)

(2) 題材観

本時は、お互いに「よいきき方」で聞くことが、お互いの気持ちを理解する上で大切であることを体験的に理解することをねらいとしており、本時の活動内容は特別支援学校学習指導要領（自立活動）の内容項目「3 人間関係の形成」と「6 コミュニケーション」とも関連付けて設定している。相手の話を聞いて適切に受け止めることや、自分の気持ちをしっかり伝えていくことは、これからさらに関りを広げていく中で不可欠な能力となる。お互いに聞き合うことを通して、他者との関りの楽しさを味わうとともに、児童一人一人の自己肯定感が高まるような声かけと活動を行う。

(3) 指導観

話を聞くことの大切さを理解させていく上で、なぜ話を聞くことが必要なのかを事前にきちんと押さえさせた上で活動をさせていく。また個々の能力差が大きいことから、発言の仕方や伝え方、事前に行うことなどを予告した上で、自信を持って活動ができるように支援をしていく。

3 題材の目標

(1) 共通目標

よい聞き方や話し方に関する活動を通して、聞くことや伝えることへの意欲をもつ。

(2) 個人目標

児童	学習における実態	本時における個人の目標
A	省略	省略
B	省略	省略
・	・	・
・	・	・
・	・	・
I	省略	省略

4 題材の指導計画 2時間扱い 本時2 / 2時間目

第1時 「よいきき方」を思い出そう

1学期に学んだ話の聞き方をもう一度考え思い出すことができるようにする。

第2時 「きき名人」「話し名人」になろう

5 人権教育上のねらい（普遍的な課題「共感と連帯感」）

「よいきき方」について聞き方を具体的に考えたり、「よいきき方」をするためにお互いの気持ちを理解することの大切さを体験的に学習したりすることを通して、安心して互いの考えを伝え合い、他者への共感や連帯感を育てる。

6 人権教育上の視点

(1) 他者の立場や思いに興味・関心を寄せ、自他の価値を尊重しようとする。

(価値・態度)

(2) 能動的な傾聴や適切な自己表現で伝え合い、友達と協力しながら課題に取り組むことができる。

(技能)

7 本時の学習指導（2 / 2）

(1) 本時の目標

①共通目標

相手の話を「よききき方」で聞き、自分の思いを伝えることができる。

②個人目標

児童A 相手の気持ちを聞いたり、自分の思いを伝えたりする。

児童B 相手の気持ちをよく聞いたり、自分の気持ちを伝えたりする。

児童C 相手の気持ちをよく聞いたり、自分の気持ちを伝えたりする。

児童D 相手の気持ちを受け止めたり、思ったことを伝えたりする。

児童E 相手の気持ちを受け止めたり、思ったことを伝えたりする。

児童F 相手の気持ちをよく聞いたり、聞かれたことに適切に答えたりする。

児童G 相手の気持ちを受け止めたり、思ったことを伝えたりする。

児童H 相手の気持ちを受け止めたり、思ったことを伝えたりする。

児童I 相手の気持ちを受け止めたり、思ったことを理由も一緒に伝えたりする。

(2) 本時の展開

◎人権教育上の配慮

段階	学習活動	◆指導上の留意点 ○教師の発問・児童の反応					◇評価 ☆ICTの活用	時間
		□個別の支援(T2、T3の動き等)						
		A	B	CDE	F	GHI		
導入	1 はじめの挨拶をする。	◆目を見て挨拶ができるようにする。 ◆全員で声を合わせて挨拶をする。 □T2, T3 は姿勢を正すよう声をかける。					☆活動内容をパワーポイントに映し、具体的に活動内容がわかるようにする。	5
	2 アイスブレイキングジェスチャーをする。	○グループ毎に1列に並びましょう。 ◆T1 は事前にグループを決めておく。 □T2 は掲示、T3 はグループが分か						◎よい聞き方で聞くことで、相手の気持ちを考えて尊重することが相手を理解する上で大切だ

	<p>3 本時の学習の流れを知る。</p>	<p>らない児童の支援をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「きき名人」「話し名人」になる</p> </div> <p>う</p> <p>○「よい聞き方」とはどのような聞き方でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を見る ・静かに聞く ・うなずきながら聞く <p>○自分の好きなものを紹介しましょう。</p> <p>◆T1 が聞き方の例を示す。</p>	<p>ということ全員で確認する。</p> <p>◎教師が聞き方の例を示し、より意識できるようにする。 (技能)</p>						
<p>展開</p>	<p>4 お互いの話を聞き合っ てよいところを見つけよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○よい聞き方、話し方を意識して、好きなものを紹介してみよう。</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> </td> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> <p>□ T2 は姿勢等を確認する</p> </td> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> </td> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>・教師の問い返等で行うことを把握しながら答える</p> <p>□ T3 は声かけを行い参加を促す</p> </td> <td style="width: 20%; padding: 5px;"> <p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> </td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T1 は全体を巡回し、活動がスムーズに行えるよう声かけを行う。また、うまく活動している児童は個別に称賛する。</p> </div>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> <p>□ T2 は姿勢等を確認する</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>	<p>・教師の問い返等で行うことを把握しながら答える</p> <p>□ T3 は声かけを行い参加を促す</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>	<p>◎教師が話し方の例を示し、より意識することができるようにする。(技能)</p> <p>☆行うことを視聴覚資料にまとめ、共有できるようにする。</p> <p>◎個別に声かけを行い、できていることや頑張っていることを称賛する。 (価値・態度)</p> <p>◇ペアで協力して活動に取り組むことができたか。 (行動・観察)</p>	<p>25</p>
<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p> <p>□ T2 は姿勢等を確認する</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>	<p>・教師の問い返等で行うことを把握しながら答える</p> <p>□ T3 は声かけを行い参加を促す</p>	<p>・ペアの友達の話を黙って聞き発表する</p>					

ま と め	5 振り返り ・一人ずつわかったことを発表する。	○今日の学習で思ったことやわかったことを発表しましょう。					☆振り返りで話すことをパワーポイントで示しておく。 ◇活動を通して考えたことを自分の言葉で発表することができたか。(発表)	10
	6 終わりの挨拶をする。	・自分が思ったことを発表する	・自分が思ったことを短い言葉で発表する	・自分が思ったことを発表する	・自分が思ったことを促されて発表する	・自分が思ったことを発表する		
		◆目を見て挨拶ができるようにする。 ◆全員で声を合わせて挨拶をする。 □T2、T3は姿勢を正すように声をかける。						

(3) 個人目標に係る評価

友だちの話をよく聞き、自分の思いを伝えることができたか。

8 板書計画

今日の 修業	「きき名人」「はなし名人」に	伝えあいのルール	やること
めあて	よいきき方を考えて、友だちにつたえよう	1 3人ペア 2 2人が話す人 1人が聞く人 3 おわったらしずかにまつ 4 2人の聞き方、伝え方のよいところを発表する。	1 やることの かくにん 2 活動① 3 活動② 4 振り返り
よいきき方 ・目を見て(相手を見て) ・しずかに ・うなずきながら			

中学校第2学年 国語科学習指導案

1 単元名・教材名 話す聞く 「聞き上手になろう」～質問で話を引き出す～

2 生徒の実態（省略）と本単元の意図

「話すこと・聞くこと」の指導では、「話すこと」に力点が置かれ、「聞くこと」の指導は「しっかり聞く」態度と「要点」の聞き取り、そのための「メモ」以上には、具体的な指導がなされていない側面があるのではないか。その背景には、対話を主導するのは話し手であり、聞き手は「受け手」としての従の立場と見がちな意識があるように思われる。

確かに対話のやり取りは、一見、話し手主導に見える。しかし、私たちは話しながら、聞き手がどう受け止めているか、何を聞きたがっているか、と考えて話の内容を調整することがあるだろう。また、実際に聞き手の質問や賛否の反応が対話に新たな展開をもたらすこともよく経験する。これらは、聞き手が対話を主導する場面だと言える。

本教材は、「聞き手が質問で話を引き出す」ための知識・技能を具体的に学ぶことにより、より積極的に対話に参加する態度を育て、「対話の目的の達成に貢献する聞き手」を育てる格好の教材である。

今回の授業では、「対話を主導する聞き手」の大切さを理解させたい。聞き上手は、話し手に安心やゆとりを与え、この安心やゆとりがより話しやすい環境を作る。「聞き上手は良い話し手を育てる」ことを実感させたい。

3 単元の目標

- (1) 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。＜知識及び技能＞(1)ア
 (2) 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。
＜思考力・判断力・表現力等＞A(1)エ
 (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。 ＜学びに向かう力、人間性等＞

4 本単元における言語活動

紹介や報告など、伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。
（関連：言語活動例A(2)ア）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音声の働きや仕組みについて、理解することができる。 ((1)ア)	①「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相	①言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとして

	違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。 (A(1)エ)	いる。
--	------------------------------------	-----

6 指導と評価の計画（1時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1 本時	①聞き方の工夫や質問の種類を知る。	①聞き方の4つの工夫、2種類の質問	<ul style="list-style-type: none"> ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方等に注意しながらスピーチをしている。 ・話し手のスピーチに耳を傾け、聞いたことを基に質問の仕方を工夫して聞き、対話をしながら話を十分に理解しようとしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】 ワークシート・自己評価シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、対話で聞き取った話の内容を踏まえ、質問の仕方について建設的に自分の考えをまとめようとしているかを確認する。 </div>
	②対話の練習をする。	②工夫を使った「対話」	
	③学習を振り返る。	③学習のまとめと共有	

7 人権教育上のねらい（普遍的な人権課題「コミュニケーション能力」）

豊かな言語活動を通して、肯定的な関わり方による相手との良好なコミュニケーション能力を育成し、互いの意見や気持ちを適切かつ豊かに伝え合い、分かり合うことができるようにする。

8 人権教育上の視点

- (1) 相手と伝え合い、分かり合うために、コミュニケーションを深める姿勢を身に付けることができる。 【価値・態度】
- (2) 誰とでも分け隔てなく課題を考えたり教え合ったりするなど、協力して課題に取り組むことができる。 【技能】

9 本時の学習指導

(1) 目標

○必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。

＜思考力・判断力・表現力等＞A(1)エ

(2) 評価規準

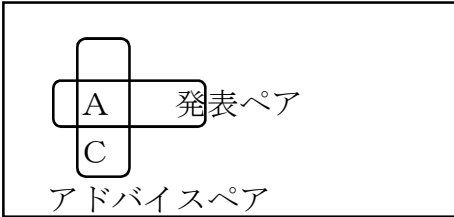
○「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

◎人権教育上の留意点

過程	学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 5分	1 ロールプレイを観察して感想をもつとともに、本時の課題を確認する。	○きき手の聞き取り方によって、話し手の話しやすさに違いがあること。	<ul style="list-style-type: none"> ・きく＝「聞く」「聴く」「訊く」を意識させる。 ・教員と生徒とでロールプレイを演じる。 (生徒に「悪役」を演じさせない) ◎生徒が演技者に意識を集中できるような声かけをし、学習のよい雰囲気を作る。 <p style="text-align: right;">【価値・態度】</p>
展開 I 10分	2 聞き方の工夫を知る。	<p style="text-align: center;">【課題1】 質問の仕方や聞き方の工夫を学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞き方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・相づちを打つ ・相手の言葉を繰り返す ・相手の言葉を引用する ・他の言葉で言い換える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きき手の相づちなどが話し手に安心感を与え、対話をスムーズにさせる」ことを理解させる。
展開 II 30分	3 質問の種類を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○2つの質問の種類 ①絞る質問 (クローズド・クエスチョン) <ul style="list-style-type: none"> ・答えが1つ(YES・NO)の質問 ・選択肢から選ばせる質問 ②広げる質問 (オープン・クエスチョン) <ul style="list-style-type: none"> ・自由に答えさせる質問 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの効果を理解させる。 ①「事実や考えを確かめるときに有効な質問方法」であること。 ②「話題を広げたり深めたりするとき有効な質問方法」であること。 ・教科書の二次元コードから「林さんの話」と「質問例」を視聴させる。
展開 II 30分	4 ペア学習で友達の文章を読み、2種類の質問を考える。	<p style="text-align: center;">【課題2】 相手の話を引き出せるように、工夫して質問しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○友達への2つの質問 ①絞る質問 (クローズド・クエスチョン) <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線で行ったのですか？ ・何日間滞在しましたか？ 等 ②広げる質問 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話し手の文章」は事前に作らせておく。 ・発表は、生徒A・B、生徒B・Dで行う。 ・机間指導で、課題解決の難しいペアを支援する。 ◎生徒同士が協力して取り組めるよう支援する。

		<p>(オープン・クエスチョン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無事着いたときの気持ちは？ ・一番楽しかった思い出は？ 等 	<p>☆アドバイスし合い、協力して課題に取り組んでいる。【技能】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div>
5	<p>考えた質問をグループ内で発表し合う。</p>	<p>○4人グループで「話し手」「きき手」「観察者」の3つの役割を、ローテーションで果たすロールプレイ</p> <p>①話し手A 用意した文章を読む きき手B 2つの質問をする 観察者C・D きき手を観察・評価する</p> <p>②話し手B・きき手A・観察者C・D</p> <p>③話し手C・きき手D・観察者A・B</p> <p>④話し手D・きき手C 観察者A・B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人組の活動とし、全員がきき手を体験できるよう、4回繰り返す。(①～④) ・それぞれの発表の合間に、観察者が記録できる時間を設ける。 (1)クローズド・クエスチョンは適切だったか。 (2)オープン・クエスチョンは適切だったか。 (3)聞き方は工夫されていたか。 ◎自らの役割に合った動きで活動に参加できるよう支援する。 ☆グループの中での役割を自覚し、他のメンバーの意見を尊重しながら、主体的に課題解決に参加している。【技能】
まとめ 5分	<p>6 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>きき手は、絞る質問や広げる質問を意識して聞くことが大切である。</p> </div> <p>7 学習の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今後は、話し手に安心やゆとりを与えられるよう、きき方を工夫したい。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・2～4人の生徒に、自分の言葉で発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>ワークシート・自己評価シート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、対話で聞き取った話の内容を踏まえ、質問のしかたについて建設的に自分の考えをまとめようとしているかを確認する。 </div>

中学校第2学年 社会科学学習指導案

1 単元名 『鎖国下の対外政策』

2 単元について

(1) 教材観

本単元では、江戸幕府の外交政策について学習する。江戸時代初期はアジアやヨーロッパとの貿易が盛んに行われ、物だけでなく、人の移動も盛んであった。しかし、キリスト教の広がりをおそれた幕府は、諸外国との交易を制限し、鎖国政策を実施した。幕府の外交政策変換の背景を、キリスト教の布教による幕府への影響、外国との交易の独占の2点から理解させる。本時では、特にアイヌ民族についての理解を深める学習を中心にしたい。

(2) 生徒観 (省略)

(3) 指導観

本単元では、オランダ、中国との交易の他、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱い、アイヌの文化について触れることが必須であり、2020年にオープンした「ウポポイ (民族共生象徴空間)」との交流をWeb会議システムを活用して行うことで、アイヌ文化についての見識を深め、疑問を持ち、アイヌに限らず、「共生」がこれからの社会の中で大切になってくることを意識させられるような授業にしたいと考えている。

3 単元の目標

- (1) 江戸幕府の成立の経緯と政治制度のあらましを、幕府による大名や朝廷の統制政策とつなげて考える。
- (2) 江戸時代の身分制度と武士・百姓・町人の暮らしに関心を持ち、身分による格差があった理由を考えることができる。
- (3) 貿易の振興から鎖国へと対外政策が変化したことと、それが国内政治に与えた影響について気付き表現できる。
- (4) 鎖国下の貿易、朝鮮との交易や琉球の役割、アイヌの人々の生活に関心を持ち、鎖国下の対外関係を広角的に理解することができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、鎖国下の対外関係などに関する様々な資	江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策、鎖国下の対外関係や江戸幕府の政治の特	近世社会の基礎や幕府と藩による支配の確立など、近世の歴史的事象に対する

料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ることができる。	色について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	関心を高め、意欲的に研究し、近世の特色をとらえようとしている。
---------------------------------	---	---------------------------------

5 単元の指導計画

「江戸幕府の成立と鎖国」・・・・・・・・・・ 6時間（本時6／6）

1. 江戸幕府の成立と支配の仕組み
2. さまざまな身分と暮らし
3. 貿易の振興から鎖国へ
4. 鎖国下の対外政策
5. アイヌ文化について学ぼう
6. アイヌ民族についての疑問を解決しよう

6 人権教育上のねらい（多様性の尊重・共生）

生徒らが、より良い社会の担い手として成長していくために、社会科では、人権感覚の醸成が大切である。本時では、「アイヌ文化」について取り上げ、疑問を持ち、「ウポポイ」の方に質疑応答の時間を取り疑問を解決する活動を行っていく。その活動の中で、日本国民または地球市民として、様々な人々が社会で「共生」しようとする人権感覚を高める。

7 人権教育上の視点

- (1) アイヌ社会・文化について理解し、共生社会の発展のために努力しようとする意識を養う。 【価値・態度】
- (2) 「考える」「発表する」「聞く」ことを通し、自分の思考を他者と適切に伝え合い、情報を共有することができる。 【技能】

8 本時の学習と指導

(1) 本時の目標

- ①アイヌ文化について、新たに得た知識をプリントにまとめる。（知識・技能）
- ②アイヌ文化から我々が学べることは何か考え、文章にまとめ、発表する。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

◎人権教育上の配慮

過程	学習内容	学習活動	・指導上の留意点 □評価の規準（評価方法） ☆主体的・対話的で深い学びの視点
導入 (5分)	1. 前時の復習	前時の授業で学習したアイヌについての知識を	◎アイヌ社会・文化について理解し、共生社会の発展のために努力しようとする意識を養えるような学習の雰囲気をつ

	2. 学習課題	確認させる。 本時の課題を確認する。	くる。 ・前時の授業や過去の授業で学習した内容について発表させる。
	学習課題：アイヌ文化から学べることは何だろうか？		
展開 (30分)	3. Web 会議システムを活用した「ウポポイ」との交流	生徒が考えたアイヌ文化への疑問を「ウポポイ」のゲストティーチャーに聞き、話を伺う。	・ワークシートを配付する。 <input type="checkbox"/> アイヌ文化について新たに得た知識や考えたことをプリントに記録し、まとめることができる。(知識・技能) ・タブレットの前に生徒を向かわせ、事前に準備した質問を画面越しに「ウポポイ」のゲストティーチャーに投げかける。 ・質問した生徒や回答していただいたゲストティーチャーに拍手をさせる。 ・新たに学習した内容を、ワークシートに記入させる。また、疑問に思う点や発表に対する意見などをノートにメモをとるよう助言する。
まとめ (15分)	4. 振り返り ・振り返りシート記入後、挙手にて発表する。	アイヌ文化から学べることは何かをまとめ、振り返りを行う。	・本時を振り返り、内容をワークシートにまとめさせる。 ・ワークシートにまとめた内容を発表させる。 ・アイヌ文化についての学習をふまえて、アイヌに限らず、「共生」することがこれからの社会で大切であることを伝える。 <input type="checkbox"/> アイヌ文化の学習を通して学んだことを自分なりに考え、記述・発表ができる。できればアイヌと他の事象(身近な話題)を関連付けられる内容だとよい。 (思考・判断・表現) ☆◎「考える」「発表する」「聞く」ことを通して、自分の思考や解決策を他者と適切に伝え合い、情報を共有できるような

			<p>声かけをする。</p> <p>◎アイヌ社会・文化について理解し、共生社会の発展のために努力しようとする意識を養えるような学習の雰囲気をつくる。 【価値・態度】</p>
--	--	--	---

(3) 評価

- ①「ウポポイ」との交流で、新しく得た知識・考え方をワークシートにまとめることができたか。 (ワークシート)
- ②本時で学習した内容を今後の自分の生活にいかすことを意識できたか。 (発表・発言・ワークシート)

中学校第2学年 学級活動学習指導案

1 題材名 「ネットトラブル防止」

【学級活動】(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

2 生徒の実態と題材設定の理由

本学級の生徒はほとんどの生徒が自分専用のスマートフォンをはじめ、インターネット機器を持っており、また利用している。また、コロナ禍の学校生活の中で学習支援ソフトを使い、オンライン授業も実施していることもあり、インターネットの利用については生活をする上で密接に関わり合う場面が多いと言っても過言ではない。大変便利なものであるインターネットは、使い方を誤ると友人関係のトラブルや、時には犯罪に巻き込まれてしまう危険性がある。本題材で扱う具体的なトラブルは自分にも起こり得る可能性を意識させ、今後の自分自身の行動について、より自分に合った、より具体的な目標を意思決定させ、その後実践できるように指導したい。

3 学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準

観点	よりよい生活を築くための知識・技能	集団社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解することができる。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見出している。 多様な意見をもとに、自ら意思決定して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者への尊重と思いやりを深めて、よりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え、取り組もうとしている。 自他の健康で安全な生活を構築しようとしている。

4 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> 題材を知る。 アンケートに答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題意識を高められるよう、事前に予告する。 アンケートの集計については、計画委員が集計し、視覚化できるように指導 	<p>◎アンケートを通して、これまでの自分のSNSの使い方等を振り返ろうと</p>

	する。	している。 【態】(アンケート)
--	-----	---------------------

5 本時のねらい

SNS等の利用の仕方について、自分の行動を振り返ったり、友達の考えを参考に考えたりしながら、上手な利用の仕方を理解し、自分の目標を意思決定し、実践していくことができるようにする。

6 人権教育上のねらい(個別の人権課題「インターネットによる人権侵害」)

自分及び全ての他者をかけがえのない人間として尊重しようとする能力を育成する。

7 人権教育上の視点

相手の立場を想像したり、その立場に立って自分がどうしたらよいかを考えたりすることができる。

8 展開

◎人権教育上の配慮

☆目指す生徒の姿【観点】(評価方法)

過程	活動内容	指導上の留意点	資料等
導入	1 事前のアンケート結果を見て、感じたことを発表する。	・全体でアンケート結果を共有できるように必要項目をグラフ化し、本時への意識を高める。	アンケート結果
	2 身近な「SNSのトラブル」について考える。	・テレビを使って分かりやすく提示する。 ・身近なSNSトラブルに気付かせ、意欲的な意見を引き出す。	大型テレビ 学習支援ソフトを活用する
	3 本時の目標を知る。 SNSの上手な利用の方法について考え、自分に合った具体的な目標を決めよう。		
展開	4 ロールプレイを行う。 友達から「もう、いいよ」と言われたらどう思うか、ワークシートに記入する。	・3～4人のグループを作り、ワークシートに書いた内容について話し合わせる。 ・同じ言葉でも、人によって受け取り方が違うことに気付かせる。	
	5 3つの表情、立場を変えてロールプレイを行い、感じた	・①怒り顔、②ほほえみ顔、③真剣な顔の3つでロールプレイを行わせ	

	<p>ことについて話し合う。</p> <p>6 配付された資料を基に話し合いを行う。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け取り方の違いを話し合わせ、違いを確認させ、SNS等ではどんなことに気を付けたらよいか話し合わせる。 <p>◎相手の立場を想像することや、その立場に立ったときに自分ならどうするかを考えられるような声かけをする。</p> <p>☆友達の考えも参考にしながら、SNSの上手な利用の仕方について話し合っている。【思・判・表】 (発言・観察)</p>	
終末	<p>7 自分の目標を意思決定し、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を行い、自分の課題が解決できるような具体的な目標を意思決定できるよう助言する。 <p>☆自分の課題に合った具体的な目標を決めている。【思・判・表】 (学習カード・観察・発言)</p>	

7 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> ・決定した目標を実践する。 ・2週間取り組ませた後、自己評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対し、修正が必要な場合は、修正し実践するよう振り返る機会を確実に確保する。 ・家庭の協力も不可欠であるため、学級だより等で内容を周知する。 	<p>◎目標の達成に粘り強く取り組みようとしている。</p> <p>【態】(学習カード・観察)</p>

人権教育学習指導案集

～令和3年度の実践～

発行年月日 令和4年3月

発行 埼玉県教育局市町村支援部人権教育課
さいたま市浦和区高砂3-15-1

連絡先 TEL 048-830-6892

ホームページ <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2218/gakusyusidouansyu/h29.html>



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」